【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第２区分
【発行日】令和4年5月25日(2022.5.25)

【公開番号】特開2021-154369(P2021-154369A)
【公開日】令和3年10月7日(2021.10.7)
【年通号数】公開・登録公報2021-048
【出願番号】特願2020-59358(P2020-59358)
【国際特許分類】
Ｂ２２Ｃ　9/06(2006.01)
Ｂ２２Ｃ　9/24(2006.01)
Ｂ２２Ｄ 17/00(2006.01)
Ｂ２２Ｄ 17/22(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ２２Ｃ　9/06　　Ｐ
Ｂ２２Ｃ　9/24　　Ａ
Ｂ２２Ｄ 17/00　　Ｃ
Ｂ２２Ｄ 17/22　　Ｂ
Ｂ２２Ｄ 17/22　　Ｇ

【手続補正書】
【提出日】令和4年5月17日(2022.5.17)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
鋳造を行うときには、型閉じに先んじ、固定型、可動型、ボア形成用中子及びウォータジャケット形成用中子に離型材が塗布（例えば、スプレー塗布）される。この際に大気中に飛散した離型材が、可動盤とアクチュエータの間の間隙を介して鋳造装置内に侵入し、さらに、ボア形成用中子側に回り込むことが想定される。離型材がボア形成用中子からキャビティに侵入すると、キャビティ内の離型材が過剰量となる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
下方及び上方のボアピン３４はいずれも、重力の影響を受け、第１環状溝４６、第２環状溝４８の延在方向に対して前端側が上方に向かい且つ後端側が下方に向かうように傾斜するような姿勢となる。このため、上記したようにボアピン３４の遠位部４０の側周壁下部がＷＪ用中子４２の内周壁下部に当接する。また、ボアピン３４の近位部３８の側周壁とＷＪ用中子４２の内周壁との間では、間隙４４は、図４に示すように、下部で小さく且つ上部で大きくなる。すなわち、下部側の離間距離Ｄ１は、上部側の離間距離Ｄ２に比して小である。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５１
【補正方法】変更

【補正の内容】
【００５１】
そして、この実施の形態では、シール部材として第１Ｏリング５０、第２Ｏリング５２を用いているが、シール部材の個数は１個でもよいし、３個以上であってもよい。３個以上の場合、最前方のシール部材よりも前方に第１開口６２を形成すればよい。なお、この場合、間隙４４は、最前方のシール部材よりも前方の近接側部分７２と、最後方のシール部材よりも後方の離間側部分７４とに区分される。